

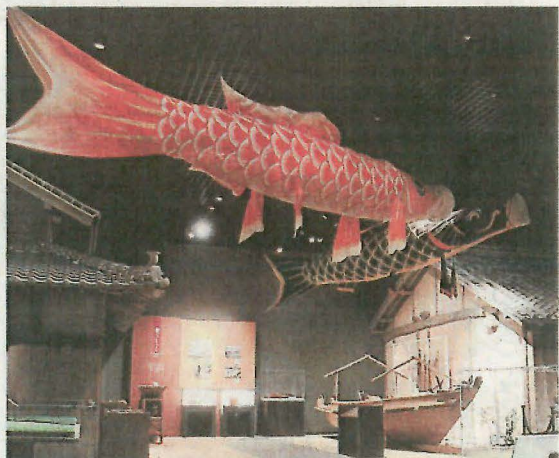
えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から②

「おもしろくへんからむ風門伝説（鯉の滝登り）」とい
や鯉職（こいのぼり）」「正
岡子規の俳句にも詠まれた
鯉のぼり。今でも五月晴れ
の青空と風にたなびく鯉の
ぼりの様子は、なんともほ
ほ笑ましい初夏の風物詩と
なっている。

鯉のぼりの歴史もまたひ
な飾りと同様に、江戸時代
中期ごろが始まりといわ
れ、江戸時代の終わりに関
東を中心に流行した。登竜
門伝説（鯉の滝登り）とい
う中国の故事を描いた縦長
の職が鯉のぼりのルーツと
いわれ、平面で描かれてい
た鯉を立体化して青空の下
で泳がせたのは、さすが江
戸っ子らしい粋な発想とい
えるだろう。

鯉のぼり



1949年ごろに八幡浜市で制作された
鯉のぼり＝県歴史文化博物館蔵

鱗描き方と尻びれ特徴

黒色の真鯉（まごい）と緋
（ひ）色の緋鯉は、どちら
も全長は約5・8尺。色の
濃淡や、豊かな筆つかいは、

手染めならではといえる。
この鯉のぼりには一般的
な鯉のぼりとは異なる珍し
い特徴が二つある。

一つは、真鯉と緋鯉を見
比べると、鱗（うろこ）の
描き方が異なることであ
る。真鯉の鱗は、鋭角な縁
どりと黄色によって鱗をシ
ヤープに見せている一方、
緋鯉の鱗には、丸い縁どりと
淡い朱色と白色で丸みを
より一層引き立たせてい
る。同じ寸法の鯉のぼりで

つひれが付くことが一般
的といわれるが、まれに尻
びれが付く場合があるそう
だ。この鯉のぼりのひれを
数えていくと、五つめのひ
れである尻びれが丁寧に付
けられている。
博物館では、この鯉のぼ
りにグラスファイバー製の
棒を組み合わせた骨組みを
取り付け、天井からつって
展示している。あたかも風
を受けて泳いでいるかのよ
うな鯉のぼりの姿からは、
リアルな鯉を表現しようつと
した職人の心意気が伝わっ
てくるようである。

ありながら、緋鯉の方が丸
みを感じるのには描き方の妙
とも言える。

もう一つの特徴はひれの
数である。鯉のぼりには、
背びれと尾びれ、腹側に胸
びれ、腹びれの合わせて四

（専門学芸員・宇都宮美紀）
△月2回掲載します▽

鯉のぼりは、県歴史文化
博物館（西予市）の常設展
示室で6月30日まで展示
中。